

平成 28 年度医療技術等国際展開推進事業での派遣
(チョーライ病院での循環器セミナー)

国際医療センター 部長 秋山 稔

派遣時期：平成 28 年 10 月 24 日～10 月 31 日

昨年度の医療技術等国際展開事業では術後管理をテーマとしたセミナーを実施しましたが、今年度はベトナムで徐々に増加している循環器疾患をテーマとして「循環器疾患治療の新しいトレンド」と題したセミナーを開催しました。セミナーは心臓血管外科、循環器お内科では内科的治療と心臓カテーテル治療、さらに心臓血管外科の術後看護など循環器疾患を外科・内科・看護の側面から総合的に協議するセミナーとなりました。心臓血管外科は平松祐司教授が「複雑な先天性心疾患の周術期管理」、徳永千穂講師が「心臓外科患者の基礎的・先進的評価」、古垣達也臨床工学師が「心臓外科における人工心肺管理の重要性」について発表、その後心臓血管外科術後看護では宮原めぐみ看護師（HCU）が心臓外科術後のリハビリテーション」、仁平かおり PICU 副看護師長が「小児心臓外科の術後看護」について発表しました。この二つのセッションは平松教授とチョーライで心臓血管外科が専門の Tien 副院長が座長の任を担いました。午前中の後半からは内科セッションで、山本昌良講師が「心エコーを用いた心不全患者最新の管理」について発表、午後は心臓カテーテル治療を中とした発表でしたが、内科セッションはすべて山本講師とチョーライ病院の Lien 循環器内科医長が座長を行いました。全部で 17 演題の発表で筑波大学附属病院から 6 演題、チョーライ病院から 8 演題、南部の省病院である Khanh Hoa 総合病院から 2 演題、Dong Nai Thong Nhat 病院から 1 演題でした。チョーライ病院では地方の省病院に対する指導活動を継続的に行っており、地方のレベルも徐々に改善してきていることが分かりました。各演題の後には質疑応答の時間が十分に準備され、ハノイからの参加者も含めて活発な協議がありました。ベトナムにおいては 1990 年を境に非感染性疾患が感染性疾患よりも罹患率、死亡率とも上回り、それ以降その傾向は強くなっています。循環器疾患のみならず、脳血管障害、悪性腫瘍、糖尿病を含む代謝疾患など急激に増えており、今後もこれらに関する協力は有効と思われ、また日本の若手医師、看護師にとってもチョーライ病院の持つ多彩で膨大な症例に触れることは経験を積むうえで有効と思われ、今後も協力を継続できればよいと感じました。



セミナー会場



開会のあいさつ (秋山)



平松教授の口演



徳永先生の口演



古垣氏の口演



宮原看護師の口演



仁平副師長の口演